

(座長・菊地の過去作を一部公開します。許可のないWS使用等を禁止します)

①【Pain rain】

鬱憤や不安、他者の痛みを受け止めるため、「殴られ屋」を営む主人公・正義。援助交際に自分の居場所を求める少女、東大出のエリート教師、家庭の溝に苦悩にする人々、警察官、オカマの刺青師・入間。多くの人間関係が彼を軸に交錯する。以下の抜粋は、本作の冒頭である。

雨の音の中、入間が正義を殴っている
正義、腹を決められ倒れこみ悶絶する

入間 はあはあはあはあ・・・
正義、悶絶する
入間、去ろうとする。

正義 満足しましたか？
入間立ち止まり

入間 は？
正義 (悶絶しながら、しかしどこことなく満足そうに) あなたの溜まったガスは、
抜けきりましたか？

入間、無言で去ろうとする

正義 あなたの、あなたの心を蝕み、あなたを悪魔足らしめる毒は、中和されましたか？

入間 ……消えるわけじゃないでしょ。



間

正義　じゃあ、どうぞ。

入間　え？

正義　あなたの中の毒が消えるまで、どうぞ。

入間　・・・なに言ってるの。

入間、去ろうとするが、正義、入間の前に立ちふさがる。

正義　さあ、僕にぶつければいいんです。この、この拳で、この脚で、さあ、さあ。

入間　何なんだよ、あんたは。

入間、正義を殴る。

正義倒れる

正義　そんなんじゃあ消えないでしょう、さあ、僕に、僕で発散してください。

入間　やめて、やめてよ。

入間、再び殴るが、正義すぐに起き上がる

入間　いい加減にしてよ。なんなんだよ。

入間、正義に馬乗りになり殴りまくる

徐々に疲れてきて止まる

入間、肩で息をしている

正義　・・・満足しましたか？

入間　・・・頭おかしいんじゃないの？

正義　え？

入間　なんなんだよ、あんたは？　なんで殴られてんだよ。なんでやり返さないの？
あんたいったいなんなんだよ？　なんで全部受け止めてんの・・・。

入間、泣き出す



正義 僕は殴られ屋です。

人間 え？

正義、人間に名刺を渡す

正義 殴られ屋の反山正義といいます。どうしようもない時は、いつでも連絡してください。

さい。

人間、泣き崩れる

暗転

② 【ノア】

生きることに希望をなくし、手首を切って命を絶とうとした主人公・光希。

しかし眼が覚めると、そこは「自分の中」の世界だった。腕、足、ペニスといった体の部位には固有の意識があり、光希の前に現れた。彼らは主人である光希を「陽の王」として崇め、説得するが、光希と対を成す存在である「陰の王」は、自らが表に入れ替ろうと画策する。彼は光希の卑屈や無意識、逃避した過去といった、心の闇の具現だった。

以下の抜粋は、恋人であるユリコが自らの希望と気づいた光希が「影の王」と向き合う終盤のシーンである。

陰の王、第六感の胸ぐらを抱む

陰の王 なぜ黙っていた？ すぐに教えてくれればすぐに対処出来た。

第六感 彼は君らが行けない場所に居た。そこで全てを知り、ここへ向かっている。

そこには既に苦痛に耐えボロボロになった光希がいる

陰の王は第六感の胸ぐらを離す



光希 陰の王・・・
陰の王 貴様

陰の王は後ずさりする

陰の王 誰か居ないか？おい、我が僕よ。誰も居ないのか？
光希 下で、俺の仲間が身を挺して止めてる、ここにはしばらく来れないよ。

光希、脚に激痛を感じ、跪く

光希 心の臓を見つけたんだ

最後の1ピースを掲げる

陰の王 ・ ・ ・嘘を付くな。そんなものが心の臓であるはずがない。
光希 大きさも質も関係ない、大切なものを大切にしてくれる。この記憶の中の、ユリ
コが大切に守ってくれてたんだ。

陰の王 ・ ・ ・
光希 陰の王
陰の王 なんだ？

光希、ゆっくりと頭を下げる

光希 ごめん。
陰の王 なにをしている。

光希 第六感に教えてもらったんだ。今までお前がどんな思いをしてきたのか、お前の
記憶、全部教えてもらったんだ。今まで、ごめん、死のうとして、ごめんなさい。

光希、土下座をする
そして腕の苦痛に顔を歪める

陰の王 貴様・・・ふざけたマネをするな。

陰の王、光希をぶん殴る
表裏一体の彼らは感覚がリンクしているため、陰の王も苦痛である



陰の王

貴様に何がわかる？ 貴様に押しやられた掃き溜めのような場所で生きてきた私の気持ちだが、簡単に分かってたまるか。今まで貴様には、幸せな記憶の残骸しか残ってなかっただろ。私はずっと、貴様が押し殺してきたモノと向き合わなければならなかったんだ。

光希の腹を殴る

陰の王

わかるか？ 中には幸福なモノもあった。しかしそのあとに不幸があれば、その幸福な記憶と共に貴様は私の元へと投げ込んだ。覚えているか？ 母の子宮の中、母の顔、母の温もり、そして我々を捨てた母の姿。私は全て覚えている。あの絶望感が常に襲ってくるんだ。貴様にはわからないだろ。

光希

わからない。わからないけど、知ったから、全部教えてもらったから。だからもう一度、俺に生きさせてくれないか？

陰の王

調子の良いことばかり言ってるんじゃないぞ。

今度は光希が陰の王を殴る

光希

ユリコに会いたいんだよ。最後に俺、優しいあいつにひどいこと言っちゃったんだ。お前の記憶知って、それ以外にもひどいことしてた。あいつの悲しい顔全部忘れてたから、帰って、全部謝りたい。

陰の王

帰っても同じことだ。貴様はすぐに忘れて同じことを繰り返す。貴様はユリコを不幸にするだけだ。

二人は殴り合う

ただただ、殴り合う

その様子を見て、ユリコは無言で涙を流す

陰の王

お前に私の気持ちがあつたまるか。貴様に、俺の気持ちがあつたまるか。貴様に、貴様なんか俺の気持ちがあつたまるか。

そして二人は倒れ込む

再び地鳴りがする

③【ユートピア】

薬物依存の主人公、ヒロミ。歌舞伎町のゲイバー「フェニックス」での出会いによって、彼女を取り巻く環境は少しずつ動き出す。売り子のアリサ、元薬物依存で今は看護師であるケイ。マスター、ボーイ、女性を愛せない大学生。それぞれの関わりが、やがて一筋の光になっていく。

以下の抜粋は、ヒロミを薬物依存から解放するため思い悩むケイと、過去にケイを救ったマスターとのやりとりである。

ケイはヒロミの手錠を外す

ケイ のど乾いた？

ヒロミ ……はい。

ケイ 水持ってこようか？

ヒロミ お願いします。

ケイ うん、ちょっと待っててね。すぐ戻ってくるからね。

ケイが奥に行った隙にヒロミは縄を解き出口を探す

ケイが戻ってくる足音。ヒロミはとっさ柱の裏に隠れる

ケイは縄を見て辺りを見回した後、奥に向かって、

ケイ しんちゃん、しんちゃん。

ケイが奥を向いている隙にヒロミは出口を見付け、出て行く
気付いたケイは追おうとするが、マスターに呼び止められる

マスター どうしたの？

ケイ 逃げたの。

マスター 逃げた？あの子？

ケイ うん。今の今だから。

ケイは再び追おうとするが、



マスター ケイ、待って

ケイ なに？

マスター やめな。

ケイ 何を？

マスター 逃げたんでしょ？

ケイ うん。だから

マスター だから、放って置けば良いじゃない。

ケイ ……

マスター どうしたの？ケイ？なんであの子にそんな良くするの？

ケイ だって、昔しんちゃんが

マスター ええ、したわよ。薬に溺れてたあなたを薬抜けるまでアパートに

監視して、リハビリ施設に連れて行ったわよ。

ケイ だから

マスター あなたを愛してたから。心から愛してたから。それに私が薬とは

縁遠い存在だったから。だから、あの時あそこまで残酷になれた

の。今のあなたは、あなたは死ぬまで薬の衝動から逃れられない。

あの子はなんで逃げたの？

ケイ ……

マスター なんで？

ケイ 私が、手錠を外したから……

マスター なんで？

ケイ 手が、痛いって

マスター そんならだったら、共倒れになっちゃうわよ。ケイ。気持ちだけ

じゃ治せないんだって。助けたいって気持ちはわかる。

だったら尚更、自分と重ね過ぎちゃダメ。

沈黙

マスター

ケイ

ケイ しんちゃん、変わったね。しんちゃんいつの間にか変わっちゃった

ね。昔のしんちゃんはそんなじゃなかった。

走り去るケイ

マスター

ケイ。……大人になるって、こういう事なのよ。